

郷の集い

行 文 部
校 護 会 文 部
編 集 責 任 者
小 西 誠

11月15日 近代設備 細呂木小 健康優良校 作見小へ

35年度優良校視察

例年行われる愛護会の優良校視察は十一月十五日、秋晴れの良い天候にめぐまれて行われた。

一台のロマンスカーは、母親学級を主体に愛護会の役員と学校職員九名を加えた約八十数名の笑顔を見せて、午前八時三十分校門前をすべるように出発。目的地に向って北上した。

9時 細呂木着。同校出発 10時半 11時半 作見小着。同校出発12時12時25分 片山津着。湖月荘にて中食 4時15分 帰途 着校 5時20分 バスガイドの説明に、帰途のノド自慢に終日お和気たよ、意義ある一日を過ごした。細呂木小ではさすがに県下一を誇る設備に感嘆の声をあげた。PTA会長の話では給工費は四十八万七千円とのことだった。合併の話では身に覚えのある会員の誰もが真剣な顔。時間通り来られたのだから感心した。この校長のことは新郷校視察会の長さを改めて感じた。作見小学校では、月に二回第一、第三月曜を家庭衛生日に定め、子供の部活動として、竹やぶの切口にも気を配る。という同校の地味ではあるが堅実な環境衛生活動で、昭和二十八年から四回の表彰もなるほどと驚かされた。石川県流行のプールは、二にもあらず、湖月荘では温泉気分をたのむ。でも二日少し雨に降られた。これはあまりに良き二日に対する神のいたすところも解釈してあきらめた。(広部)

視察感想

バスの中で

孫崎 弥右エ門

私は優良校視察を二浴びる愛護会リクレーションに参加した。視察する学校は、細呂木小学校と作見小学校である。先生やお母さん方と一緒に楽しくバスに乗った。バスは紅葉した錦織の如き村道を東へく走り、奇

若がえる新郷校舎

田から人影が消えて、泣き出したいような空気が空にばいばいひろがっているが、そんな景色の中で突然新郷校がお化粧をはじめた。

バスで通りかかると、西洋のお伽話に出てくるような、赤や緑、白の屋根にぬりかえた美しい校舎を見ておどろかしている。

これは町長さんをはじめ、当区選出の東、木島町会議員のお骨折りで七万五千円の追加予算を計上して頂き、はじめた工事である。

その他感服していた手洗いやトイレのまじりに生かされた。それはかつてなく北側にも一つ新設された。無残だったキャッチボールのいたすところも直された。給食室の洗い場が改修された。校舎の腰板全部に防腐剤が塗られた。有難いのは幼稚園専用の使所が完備になったことである。小学校用の大きな便所を使用させておいてよく園児の事故がなかったことと、それでは「ゾット」する。併せて環境の中に、きょうも元気な児童の歓声がたまっている。

(村田)

矢張り母として

小島 章子

夜中から降っていた雨もいつしかやみ、秋晴れの好天気と思われた十一月十五日、優良校視察に先生方はじめお父さんお母さん方八十八名余りが二台のバスに分乗して、最初の視察校細呂木小学校に向って快走します。県下でも珍しい近代建築で、立派な学校を会長さんの御案内で校内を見学させて頂く。終てがよく行届いた校内、完全な設備の給食室等、会長さん初めPTAの方々の協力の賜に感心させられました。この様々明るい温かい環境の中心で子供達の幸福を想像し乍ら細呂木校にさよならして、国道八号線を北に向って、バスは秋晴れのもと紅葉した山々、種り入れの終わった田圃と晩秋の美しさを眺めながら、バスの中の誰もが朗らかな顔々、三十分程して作見小学校へ到着、古い校舎から健康優良校とし

教育雑感

校長 西川八太郎

一、本質をいつも忘れまい
PTAの使命
1. 教育の振興——信念と責任の上
に立つ声で教育振興
◎ 立派な人間を作ること
教育施設、教育環境、教育予算も考へる。
2. 子どもの幸福——菓子ややるより立派に生きる教育を授ける。
◎ 気高い子ども、気高い生活
築けていく。
3. 自己修養——PTAも勉強だ。
◎ 伸びるPTAだけが子どもを伸ばし得る。
読書、実験、反省
4. PTAの協力——戒、教師の独走、Pのボス化
◎ 自己反省と教養を積みつつ親切

めつけることはどうかと思つ。よくよく考へてみる必要がある。書めることは誰でもする。書めることは勇い。しかし大筆なことは、わうちのものは、まじり方である。とくに大筆なことは、ひとりりみの成長をみることに大筆である。本人がそれ位のびたか、ふとたかを考へたい。子どもは努力さえすれば、みんな一〇〇点がとれるもの考へるのはこつかけいである。あたかいはけましを忘れることなく、子どもにむかひ合つてきたいたいものである。
一、冬休みと子ども
夏休みとちがつてあつた。いつまにすぎてもしまつ。期間は短いから行事が多くて、休みの中で一掃業しく解放される時期です。
家族と接触の多い休みです。親子共々に休めを味わいたいものです。然し、いろいろな行事、遊びごと、小づかい競争と問題はいろいろあることなしよう。よく話しよく考へて有効に過ごしていただきたい。

◎ 自己反省と教養を積みつつ親切
教師はおどろかず、親は教師の立場を考へて両者協力
一、連絡法と親子
子どもたちにはとても苦になつて
いる。早くみたいようになつてく
ない。妙にいらいらする気持、不安な気持などして、とてもいらし
い。通知表を通じてかえらる

冬休みの補導をこのように

学習・遊びなど気を付けて下さい

補導委員会から

冬休みは、夏休みと違って、その期間が短い。しかし、冬休み期間に悪い遊びや子供がおぼろげなところには、よく新聞紙上でみとくべきです。本校には、正月行事を行うので、そのついでに、冬休みの補導を、良い子を育てるために補導委員会では次のようなことをきめて、冬休みの補導に万全を期しようとしております。

- 1 冬休み中の生活についての補導
 - 一 遊 び——児童会のきまりに従って、悪い遊びをしないように気を付ける。
 - 二 小遣い——無駄遣いをやめて貯金するようにさせる。
 - 三 夜廻り——各部活、時間があるうちに、早かったり遅いところなどある、これを一定したい。
 - 四 手伝い——子供が仕事を覚えるためにも、行かせたい。
- 2 冬休み中の学習について
 - 一 学習時間——時間は児童会のきまりに従って、父兄の皆さんはその様子に注意して、充分補導して下さい。
 - 二 テレビ——視聴時間は夜八時までにし、その後は床につくように補導して下さい。
- 3 その他のこと
 - 一 子供のお火を消すこと。
 - 二 映画は父兄同伴で見ること。
 - 三 凶器持参について家庭で充分注意して頂きたい。

県外出張報告

音楽は楽しく 音楽教育研究会 会に出席して

今井 貴子

十月二十九、三十の両日、大阪市東小橋小学校で行われた音楽教育研究会に山田先生と二人出席させて頂いた。指導を受けた内容を感想もいろいろあるが、今後の音楽教育の方向でもいろいろの議論を中心として述べ、報告にかなせて頂きました。これは九州の合唱と我が国のそれを比較しながら語られたもので、音楽は楽しいものでなければならぬといふこと、特に音楽教育におおしては、その生活化に心を盡す

の音といえど即興の音程が口にはぼつてくるような、前者の場合五線の上には反応しても感覚には何の反応もない。こういう点では日本よりもむしろヨーロッパはすぐれている。勿論、理論的な面や歌い方の技巧は日本の方がはるかに上であるけれども表現の隅々に神経がよびかかっているように感じられる。天しんらんまんなどのような、ヨロヨロではこの国でもなかなか上手でないのにむしろ下手といつてもよいくらいな歌い方であるが、実にたのしくのびのびと歌っている。聞いていると自然にその歌声にひきまわられて、思わず口ずさまないとはいられない気持ちにされる。従って一家団らんの場合、二、三人同志の集いの場には、必ずそこに歌声が生まれてくる。これも容易に信じられることである。(これは講師自身実際にヨロヨロ各各地の学校を視察しての感想を語ったものである) 又、その音楽は生活に深くしみついており、たのびた歌うだけでなく、歌うことによつて生活をよりたのびしくしている。これは日本人にとつて大いに見做すべきものである。なつて大いに見做すべきものである。なつて大いに見做すべきものである。なつて大いに見做すべきものである。

文芸委 勉強会開く

「郷の集い」の編集を担当する文芸委員会は、去る八月二十一日学校の家庭科教室で、委員が集まり、福井新聞社政経部の上原英一氏を講師に招き、新聞編集についての勉強会を開いた。この日は、約三時間半にわたり講師から、一般の新聞社における新聞編集のあり方、編集の仕方、団体等が作る新聞のあり方、編集の仕方について教わられた。

特に、学校の新聞、PTAの機関紙については、各学校で発行しているものについて、取材の仕方、「見出し」の書き方、文章の書き方、記事の組み合わせ方等について詳しく説明を受けた。 (小西 誠)

部落ニュース 「河間区」 春日神社の改築

当神社は、昭和二十三年の震災で拝殿が全壊した。氏子が相談して相当なものを建てたいと、河間区役所の村政を要望した。結局春日神社前橋橋式も同じく設計してもらい、区の大工が等々て工事着手することになったのである。河間区出身の一萬志家が、此の際同時に本殿の屋根を銅板で葺き替え、高岡道との間にブロックの塀を設けることとして、その二つを寄附させて欲しいとの申出があった。氏子一同大いに喜び、お受けするに決めたのである。

工費は勿論氏子の出資であるが、前記志家の外にも部分的に寄附せられた三人はどの方があるのである。命を救った氏子の喜びは一入のものだから、十一月二十日を期して竣工式と社を行ったが、晩秋であるのに快晴に恵まれたことは、誠にめでたかった。

父兄の声 誠実な子供を育てることを願って

齊藤 豊

庭の赤い万年青の葉も一枚一枚と落ちて行く。もみじの葉がけに、きょうは竹笛の音とともに落ちる葉も実とおぼれか、村の子どもも一生けんめい寒風の中でお遊ぼうとした。あんなに高学年と低学年が一緒に仕事をしているが、夏休みの時はそうできなかった。今でも高学年、低学年のつきあうまじいかなにかがある。この事は私達にも責任がある。教育制度が変わったからといって、自由だけを考えたのでは、人間の誠実さを失うことがあるのではなかろうか。

学校へよせて頂いて、授業を参観した後学校の新しい教育について私は思った。二回ばかりあった。私は親の虚栄心を出さず、幸福な環境の中で育て、今やますます新聞紙上にも言われているような不良児童にならないよう人間に育てよう願っている。

「中の浜」 縄の共同出荷探訪記

我が部落の誇り、勤労と団結の結晶は、向といつても縄の共同出荷である。秋のとり入れがすむ早朝よりの作業である。ナント式は異音と共にスピードにもとめて日一十数回、又従来の機械は巨を丸めて温かそうにたたき込んで、たばくきまでも活用してきている。トランプは毎日ナント式の辻にとり、出荷委員長の指図のもとに山根の縄を運ぶ。私は非生産者のサモイ根性から、隣のN氏に「大分細かいなつたやうだね」と聞けば「金はみんな組合へ入るの、それだけ入ったから知らん」と言わね、N氏はナント式所有者である。傍らの田舎やんは「今年も直接お金が手に入らぬで淋しい気がする」

と云う。「ナント式組合へ行つて通帳のせて来たらいわ、そしてボナスもウントね」とカワカウ、けい、羨ましくもあるが、私にはあれだけの根拠はとも出せない。農業副業のNO.1縄作業に準あれと祈つたはよいを願う。(新田ゆり子)

子供の教育について思うこと

中小路 三郎

教育の問題は厄介で困難であるが、親としては最も胸心をざり大切なものである。親は子供の将来を自分の頭の中で作り、成績が悪い、努力が足りない、やれしつけない、子供の能力以上を期待し、立身出世のみを望み、平凡な人間の完成を失ってしまうのでなく、現在の教育は個人の意思と、自由とか、あるいは話し合いの多岐決と、理解を主とした昔に比し立派なことを求めています。

しかし、反面実際の労働と生活はうんと地味で苦勞の伴うもの、自分で働いて食っていくことが決して楽でないといふ、基礎的な教育をなす道徳教育、いかにすれば切実のしつけが忘れ勝つてはならないか。道徳教育をどうするか。これは、或る者は天皇制時代の徳治と猛烈に反対する。そのかかげる民主主義は理論的に文句のいよいよありません。しかし実際に活用はつかないもので、学校や塾などの間、親子の間の理解、相互の位置、どうしたものかを考えさせる問題があるのではない。農家の作業は朝早く夜遅くまで働き、且つ子供のしつけに手近かな主婦が、主人と同一の労働を必要としている環境にある現在、子供は平等意識であるから、いかにすればいいか、たばくきまでも活用してきている。トランプは毎日ナント式の辻にとり、出荷委員長の指図のもとに山根の縄を運ぶ。私は非生産者のサモイ根性から、隣のN氏に「大分細かいなつたやうだね」と聞けば「金はみんな組合へ入るの、それだけ入ったから知らん」と言わね、N氏はナント式所有者である。傍らの田舎やんは「今年も直接お金が手に入らぬで淋しい気がする」

と云う。「ナント式組合へ行つて通帳のせて来たらいわ、そしてボナスもウントね」とカワカウ、けい、羨ましくもあるが、私にはあれだけの根拠はとも出せない。農業副業のNO.1縄作業に準あれと祈つたはよいを願う。(新田ゆり子)